

2022年5月27日

2021年度 決算概要

ソニー学園の決算結果の詳細は、2021年度計算書類に記載しており、以下で決算の概要について説明する。

学校法人会計について

学校法人会計における主な財務諸表は、下記の3つの計算書類である。

- 資金収支計算書 ・ ・ ・ 計算書類（資料 B 1～3 頁）
企業会計のキャッシュフロー計算書に近いもので、当年度の学校法人の活動に付随する全ての資金の動きの内容を明らかにすることを目的としている。
- 事業活動収支計算書 ・ ・ ・ 計算書類（資料 B 10～12 頁）
企業会計の損益計算書に相当し、学校法人の当年度の事業活動収支の状況を明らかにすることを目的としている。
事業活動を①教育活動収支、②教育活動外収支、③特別収支の3つの活動区分で構成している。
企業会計と異なる点は、企業会計の損益計算書にはない「基本金組入額」が表示されている点である。これは、学校経営を永続的に遂行していくことを前提に、必要な資産（土地、建物、機器備品、図書等）を継続的に保持するために必要な金額を示している。
- 貸借対照表 ・ ・ ・ ・ ・ 計算書類（資料 B 15～17 頁）
企業会計の貸借対照表に近いもので、学校法人の当年度末の財政状態、すなわち保有する資産と負っている債務の状態を表示している。

以下、事業活動収支計算書より、順を追って決算の概要を説明する。

(1) 事業活動収支計算書

事業活動収支は、①教育活動収支、②教育活動外収支、③特別収支の3つの活動区分で構成され、各活動区分の収支差額の合計となる基本金組入前当年度収支差額を計上したうえで、前年度からの繰越収支差額と当年度の基本金組入額・基本金取崩額を調整し、翌年度繰越収支差額を計上している。

① 教育活動収支

教育活動収入は、学生数減少に伴う学生生徒等納付金の減収があったものの、改革総合支援事業採択等による補助金の増額などにより、予算比8百万円増加の14億82百万円、同支出は、新型コロナウイルス禍によるオーストラリア・ニューカッスル大学3か月留学中止など、各種イベント・教育施策の中止等により教育研究費が削減され、さらに人件費17百万円減少などにより、予算比55百万円減少の14億34百万円となった。その結果、大学経営基盤である教育活動収支差額は、6年連続収入超過（黒字）となる48百万円を計上した。

② 教育活動外収支

低金利政策が継続される中、債券投資の受取利息は予算比3百万円増加の89百万円の収入超過（黒字）となった。

③ 特別収支

特別収入は、情報機器整備費補助金4百万円を計上し、特別支出は、図書館の不要図書などの除籍による15百万円及び債券償還差損8百万円が発生し、計23百万円を計上した。その結果19百万円の支出超過となった。

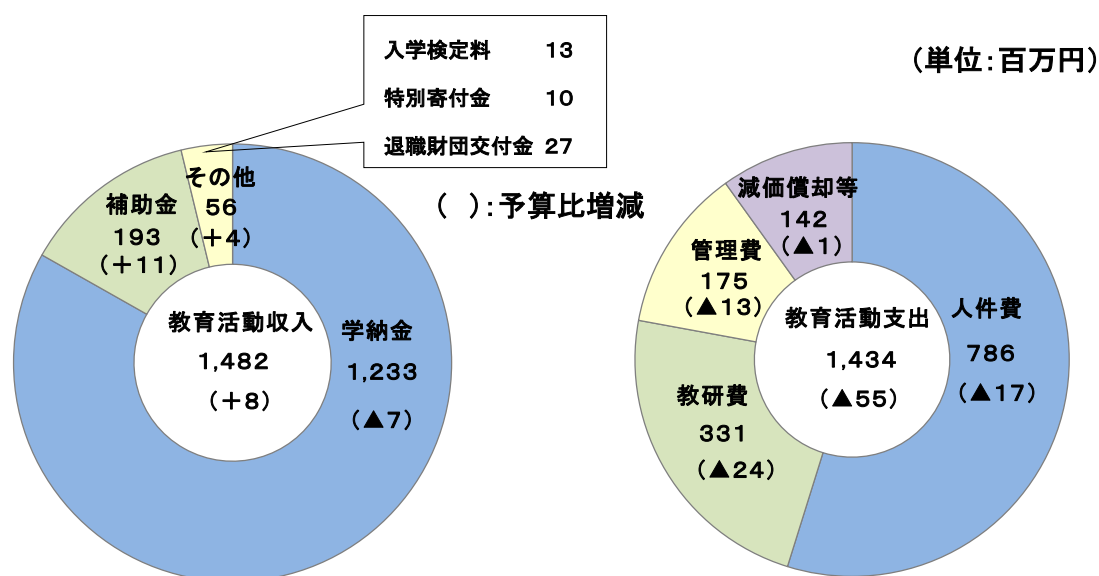
上記①から③により、基本金組入前当年度収支差額は、118百万円の収入超過となり、2013年度から9期連続の収入超過（黒字）を達成した。

この基本金組入前当年度収支差額に前年度繰越収支差額8億37百万円を加算し、当年度基本金組入額10百万円を控除した結果、翌年度繰越収支差額は、9億45百万円を計上した。

下表は、事業活動収支について予算と実績を対比させたものである。また、収入・支出の内訳については、円グラフで表示した。なお、括弧内の数値は予算比の増減を示している。

(単位:百万円)

		2021予算	2021実績	差額
	学生生徒等納付金	1,240	1,233	7
	経常費等補助金	182	193	▲ 11
	その他	52	56	▲ 4
①	教育活動収入	1,474	1,482	▲ 8
	人件費	803	786	17
	経費	543	506	37
	減価償却費等	143	142	1
②	教育活動支出	1,489	1,434	55
③=①-②	教育活動収支	▲ 15	48	▲ 63
④	教育活動外収支	86	89	▲ 3
⑤=③+④	経常収支	71	137	▲ 66
⑥	特別収入	0	4	▲ 4
⑦	特別支出	18	23	▲ 5
⑧=⑥-⑦	特別収支	▲ 18	▲ 19	1
	予備費	22		22
⑨=⑤+⑧	基本金組入前収支	31	118	▲ 87
⑩	基本金組入額	▲ 10	▲ 10	0
⑪=⑨+⑩	当年度収支	21	108	▲ 87
⑫	前年度繰越収支	839	837	2
⑬	基本金取崩額	11	0	11
⑭=⑪+⑫+⑬	翌年度繰越収支	871	945	▲ 74



(2) 貸借対照表

2021年度末の総資産は108億86百万円で、前年比74百万円の増加となった。一方、純資産（資産総額－負債総額）は100億35百万円で、前年比1億18百万円の増加となる。

資産・負債・基本金等の当年度末と前年度末の比較による主な増減要因は以下の通りである。

<資産の部>

◆有形固定資産

(当年度末26億50百万円 前年度末27億46百万円 96百万円減少)

新規に取得した資産として57百万円を計上したが、図書資産の処分及び既存資産の減価償却が進んだことで資産残高は減少した。

新規に取得した主な資産は以下の通りである。

○建物	(総額 25百万円)
7号館1階女子トイレ改修工事	11百万円
1～3号館放送ライン引替工事	5百万円
6号館イベントホール(テラス・西)エアコン工事	4百万円
1号館研究室3室エアコン工事	2百万円
1号館131教室エアコン工事	1百万円
2号館222教室エアコン工事	1百万円
○教研・管理備品	(総額 30百万円)
5号館キャンパスレストラン什器リニューアル	9百万円
図書館入退館管理システム一式	5百万円
4号館461教室遠隔授業支援環境構築	4百万円
1号館印刷室コピー機更新(2台)	3百万円
3号館322教室先進的教材映像制作支援システム	2百万円
1号館144教室AV更新	2百万円
1号館135教室プロジェクター設置	1百万円
○図書	(総額 2百万円)

◆特定資産

(当年度末38億67百万円 前年度末38億59百万円 8百万円増加)

○第2号基本金引当特定資産

(当年度末30百万円 前年度末20百万円 10百万円増加)

将来取得する設備・備品の取得にあてるための引当である。

○退職給与引当特定資産

(当年度末4億37百万円 前年度末4億39百万円 2百万円減少)

退職給与引当金要支給額の減少によるものである。

◆その他の固定資産

(当年度末34億14百万円 前年度末30億27百万円 3億87百万円増加)

○有価証券(長期)

(当年度末33億91百万円 前年度末30億8百万円 3億83百万円増加)

新規購入を9億円実施し、1億円の早期償還。本年度末時点で1年以内に満期を迎える債券4億8百万円を短期有価証券に振替えた。

(※)長/短期の有価証券と特定資産へ割当てた有価証券を合計した総額は、前年度末で75億円、当年度末で77億円となり、2億円の増加となった。

◆流動資産

(当年度末9億55百万円 前年度末11億80百万円 2億25百万円減少)

○有価証券(短期)

(当年度末4億8百万円 前年度末6億8百万円 2億円減少)

満期償還による6億8百万円減少に対し、長期有価証券の項で説明した短期有価証券への振替の4億8百万円増加により、差引2億円の減少となった。

<負債の部>

◆固定負債

(当年度末4億37百万円 前年度末4億39百万円 2百万円減少)

○退職給与引当金

(当年度末4億37百万円 前年度末4億39百万円 2百万円減少)

退職給与引当金要支給額の減少である。

◆流動負債

(当年度末4億14百万円 前年度末4億56百万円 42百万円減少)

○未払金

(当年度末82百万円 前年度末62百万円 20百万円増加)

取引先への支払(3月末は未払金、4月末支払)増加である。

○前受金

(当年度末3億25百万円 前年度末3億87百万円 62百万円減少)
2022年度入学生から受領した学納金で、学生数減少に伴う学納金の減少である。

<純資産の部>

◆第1号基本金

(当年度末64億53百万円 前年度末64億53百万円 変動なし)
新規取得資産の組入額と同等に、資産除却による取崩額が発生した。

◆第2号基本金

(当年度末30百万円 前年度末20百万円 10百万円増加)
将来取得する設備・備品への基本金組入れである。

◆翌年度繰越収支差額

(当年度末9億45百万円 前年度末8億37百万円 1億8百万円増加)
事業活動収支計算書の項を参照。

総資産、負債及び純資産の内訳は以下の通りである。なお、括弧内数値は、当年度末と前年度末の比較による増減を示している。

		(単位:百万円)	
固定資産	9,931 (+299)	負債の部	851 (▲44)
		固定負債	437 (▲2)
		流動負債	414 (▲42)
有形固定資産	2,650 (▲96)	純資産の部	10,035 (+118)
特定資産	3,867 (+8)	第1号基本金	6,453 (±0)
その他の固定資産	3,414 (+387)	第2号基本金	30 (+10)
流動資産	955 (▲225)	第3号基本金	2,500 (±0)
		第4号基本金	107 (±0)
		翌年度繰越収支差額	945 (+108)
資産の部合計		負債及び純資産の部合計	
	10,886 (+74)		10,886 (+74)

(3) 資金収支計算書

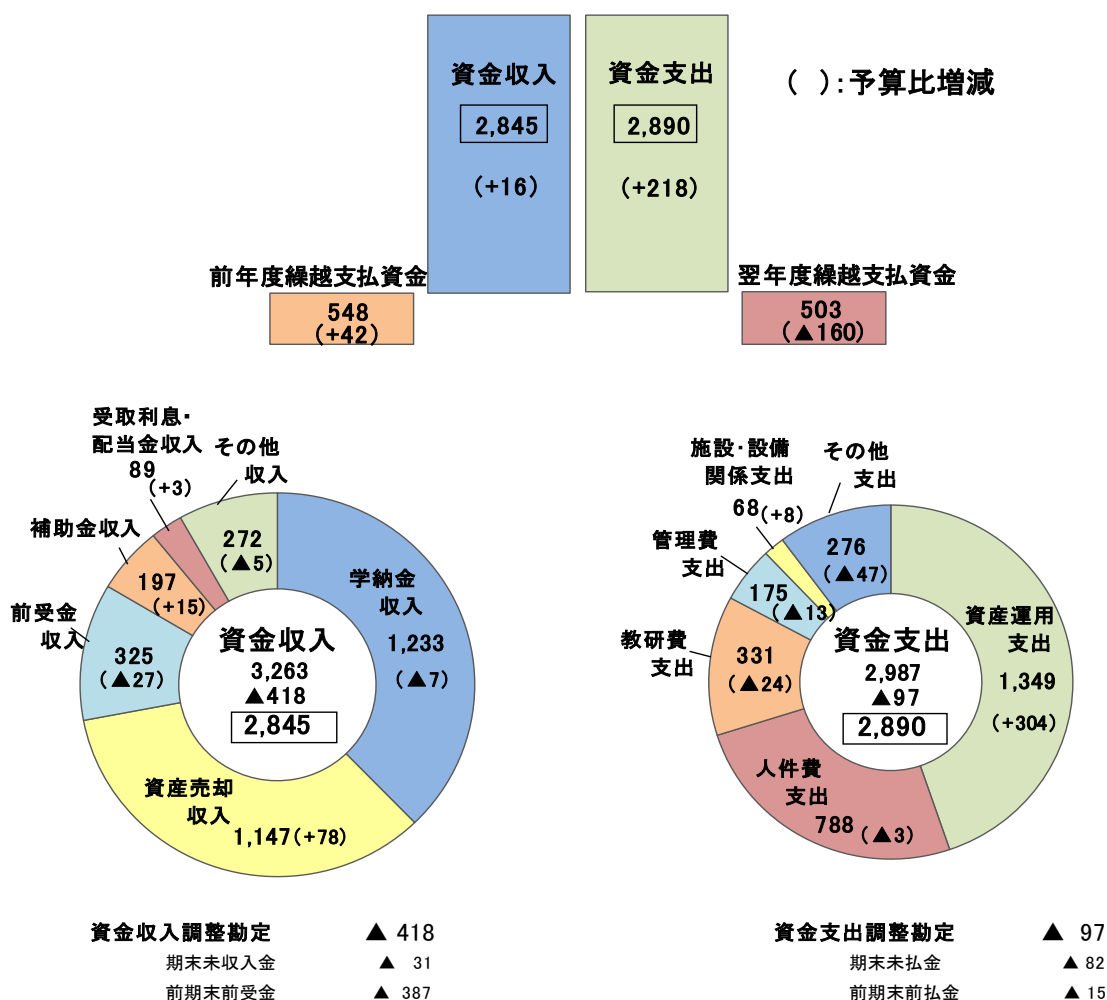
本年度の資金収入の総額は28億45百万円、資金支出の総額は28億90百万円で、収支は45百万円の支出超過となり、その結果、翌年度繰越支払資金は5億3百万円となった。

以下、収入の部と支出の部に分け、予算比で増減要因の説明をする。

収入の部：総収入は、予算比16百万円増加の28億45百万円で、主要因は、債券早期償還に伴う資産売却収入1億円増加と学生数減少に伴う学生生徒納付金収入7百万円減少、及び翌年度学納金前受金収入27百万円減少である。

支出の部：総支出は、予算比2億18百万円増加の28億90百万円で、主要因は、有価証券購入支出3億4百万円増加である。

(単位:百万円)



(4) 資金の運用状況

① 有価証券の保有状況

2021年度末の有価証券保有高は77億円で、前年度末比2億円増加した。償還7億円に対する入替を含め9億円を購入した。

なお、保有有価証券77億円のうち39億円は特定資産(退職給与引当、減価償却引当、第2・第3号基本金引当)として引当を行っており、残る38億円(短期で4億円、長期で34億円)を有価証券として貸借対照表に表示している。

② 有価証券の購入と売却・償還

有価証券の購入は、債券8億円、投資信託1億円の合計9億円であり、償還は、早期償還1億円、満期償還6億円の合計7億円となり、差引き2億円の残高増加となった。

③ 受取利息・有価証券売却差額

受取利息収入は89百万円であり、年平均利回りは1.1%であった。

以上